

Activity Report
活動レポート

Vol.43 / 2023.05 発行

発行 東京キワニスクラブ

〒101-0047

東京都千代田区内神田 2-3-2

米山ビル7階

TEL: 03-5256-4567

E-mail:

tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp

春の子ども食堂、4年ぶりに復活
杉並の東京立正中・高を会場に 2023.3.27.130人を超える参加者
おいしいカレーに「おかわり」

春休みの子供食堂が4年ぶりに復活、3月27日に東京・杉並の東京立正中学・高校を会場に開催しました。校庭に咲く満開の桜を見ながら、ベビーカーを押して参加する親子、仲良しの友だちと参加する小・中学生など、近隣の子供と保護者、あわせて131人が来場しました。同校の食堂で学生会館特製のカレーライスやポテトサラダなどのランチを食べたあと、講堂でfolkloreや太神楽などアトラクションを楽しみました。

この子供食堂は、春休み中の平日、親が仕事で出かけている子供に居場所を提供するのが目的で、近隣の小・中学生、未就学の子供もその保護者らは誰でも参加できます。



私立校で初めて開催したこともあって、「近くをよく通っているが、校内に入ったのは初めて」という参加者も多かった。カレーライスは「お肉やジャガイモがごろごろ入っていて、おいしかった」と大評判。

学生会館の田中料理長と女性スタッフがcockさんの姿で子供たちの前に立ち、「カレーは、20人がかりで準備し、会場まで運び込んだ。おいしく食べてほしい」とあいさつすると、会場から大きな拍手が起きました。

今回は東京キワニスクラブとNPO法人すぎなみ子供サポートの共催、堀之内学園東京立正、妙法寺、学生会館などの協力で実施しました。スタッフとして参加したのは総勢43人。うちキワニス関係が14人、東京立正の中高・短大生11人もボランティアとして参加しました。

2019年までは、寺子屋の会場にもなっている杉並の妙法寺で、春休み、夏休みに300人規模の子供食堂を開催してきましたが、コロナ渦の影響で3年中断、今回、妙法寺とつながりの深い東京立正の食堂・講堂に会場を変え、ようやく復活を果たしました。



会長挨拶 「60周年に向け、子ども達のために」 田中正昭 (2022.11.25 就任)

昨年11月に会長に就任しました田中正昭です。

この3年間、コロナによってもっとも大きな影響を受けたのは子供達だったと思います。入学式や卒業式、修学旅行や給食など、いろいろな面で制約を受け、マスクをしていない友だちの素顔を見られない状態が続いてきました。子供のためのキワニス活動も中止を余儀なくされたものがいくつもありました。

しかし、ここにきて、ようやく状況が変わりました。3月末には子供食堂を4年ぶりに開催できました。キワニス奨学金を支給している奨学生の方に例会に来ていただき、一緒にテーブルを囲むこともできました。池袋のサンシャインでの子供イベントは3年連続開催してすっかり定着しました。子供達の笑顔は、大人たちにも元気を与えてくれます。

東京キワニスクラブは来年、2024年の1月に設立60周年を迎えます。それに向けて、会員が力をあわせて、子供達のための活動に取り組んでいきたいと考えています。



正月は恒例の書初め



妙法寺で月2回程度開催している寺子屋は、すでに130回を超え、キワニスにとっては最も開催頻度の多いボランティアの機会となっています。

近隣の小学生が自主的に参加、午前中は持ってきた宿題やドリルなどにそれぞれ取り組みます。勉強が終わった子ども達は本を読んだり、ゲームをしたり、中にはキワニスのスタッフとけん玉に興じる姿もみられます。

毎年、年の初めの寺子屋は、みんなで「書初め」に挑戦するのが恒例です。2023年1月6日(金)には、いつもより多い50名の子ども達が参加し、高学年は毛筆、低学年は硬筆で書初めをしました。「筆の持ち方、書く時の姿勢」など基本的なことから始まり、「名前の書き方、書き初めの言葉の書き方」まで講師の巧みな指導に子ども達は真剣に取り組みました。

今回は海外で開催された「国際キワニス3地区合同新年ミーティング」とオンラインで結び、寺子屋での書初めの模様を紹介、続いてキワニス会員の奥様が「大吉大利」と大書する様子を披露しました。

書き初めの後に恒例の美味しいお雑煮を食べ、帰りに支援いただいたお菓子を受けとり大喜び。子ども達が喜ぶ姿を見ると心が和みます。



寺子屋 in 妙法寺

毎回、元気に
集まる子どもたち

本読み・紙芝居に人気

この半年ほどで新しく寺子屋で始まったのは、「本読み聴いてね」(いわゆる読み聞かせ)の時間。キワニス会員の奥様らが、子ども達に絵本を読んであげたり、紙芝居をしてあげます。

例えば立春の2月4日(土)には、「なぜ、せつぶんには豆をまくの?」という紙芝居をしたところ、低学年の子ども達は興味津々に聞き入りました。

東日本大震災からちょうど12年目の3月11日(土)は、「いなむらの火」という紙芝居。丘の上の大事な刈り取った稲に火をつけて皆を丘の上に集め、津波から救った話で、子ども達全員が車座になって聞きました。

毎回、本を読んでくれている会員の奥様は子どもたちの様子について「毎回10人前後の子ども達が集まってくれますが、みんな目を輝かせて聞いてくれます。大きくなって夢を膨らませて、想像力豊かな大人になってほしい」と話しています。



キワニスドール、「つくる会」 コロナ前の水準まで回復



キワニスドールを製作する「つくる会」は、コロナ渦の影響で開催頻度が大きく落ち込んでいましたが、今年度(2022年10月~)に入って回復傾向を示し、コロナ前の2018~2019年度の水準、年間1500体(月間120体強)に戻つつあります。

企業内で初めてドールづくりに取り組む事例も目につきます。海運業のオーシャンネットワークエクスプレスジャパン(株)では、社会貢献、ボランティア活動の一環として男女25名の社員が初めてのドールづくりに挑戦、病院で子ども達がドールを使う姿を想像し、楽しみながら綿詰め作業を進めました。(写真)手縫いの脇綴じは、女性でも経験者が少ないため、みんな苦労していました。

三菱UFJ銀行は企画部の男女19名が社員食堂に集合し、親睦も兼ねて4人1組のグループに分かれてドールづくり。所要時間は個人差があり、15分前に出来た人、居残りで完成させた人などまちまちでした。

一方、ドールを活用する病院も広がりを見せ、東京都立小児医療センターや日本医大武蔵小杉病院など、新規の寄贈先も増えました。

今年もサンシャインに結集 子どもスマイルイベント 2023.4.4.

3回目となる「子どもスマイルイベントinサンシャインシティ」が今年も東京・池袋で開催されました。天気にも恵まれ、心温まる楽しい一日でした。

今回参加した子どもは24名。前回より小学生が増えました。ベトナム、ミャンマー、ネパール、中国にルーツを持つ家庭の子どもが半数を超え、多様性に富む皆さんでした。ほかに保護者や地元のNPO法人豊島WAKUWAKUネットワークのスタッフなど大人が12人、キワニス会員13人や、サンシャインの多数の社員がボランティアとして参加しました。

まず、サンシャインの大関さんの案内で、開館前の水族館に入れていただき、空飛ぶペンギンの前で記念撮影。あとはグループに分かれて自由に見学、海の友達に会って歓声を上げていました。クラゲの美しさ、サメの魅力、ペンギンの可愛さなどが印象的だったようで、飼育係の方の活躍ぶりにも感銘。写真が増えたと喜ぶ子どももいました。

続いて、カンファレンスルームに集合、小林会員が運営するシナリオセンターのチームの指導で、「シナリオ作り」の体験をしました。日本語がまだ不得手な子どもにも配慮して、まず主役となるキャラクター（主人公）を作り、次にそのライバルとなるキャラクターを想定、2人が登場する物語を考えるという手順で進めましたが、積極的に成果を発表する子どもが多く、よい思い出になったようです。

みなでお弁当を食べた後、一人一人の感想を言っていたいだいた。

豊島こどもWAKUWAKUネットワーク栗林知絵子理事長は「春休みの楽しみとして定着してきており、毎年楽しみにしている」と感謝していました。

【子ども達の感想】

- ・楽しかった
- ・水族館で魚が見られてうれしかった
- ・クラゲがきれい
- ・クラゲが見られてうれしかった
- ・サメがよかった
- ・ペンギン、クラゲ、魚がきれい
- ・写真が増えた
- ・キャラクターづくりがよかった
- ・飼育員の様子が見られた
- ・ごはんおいしかった
- ・いい思い出になった
- ・友だちが増えてうれしかった
- ・また来たい

水族館に笑顔



シナリオ作りも楽しむ



奨学生 元気に入学・進級

キワニス奨学生4人のうち2人が3月31日の例会に元気な姿を見せました。コロナ渦より前には例会出席が恒例となっていたが、この3年間は中断しており、久しぶりに奨学生の声を直接、聞くことができました。

児童養護施設を巣立って1人暮らしを始めるAさんは4月から大学に入学、ペット専門の看護師になるのが目標。臨床検査技師をめざすBさんは専門学校（3年制）の3年生に進級、病院の実習に励んでいます。ともに目標に向かって頑張っている2人を、キワニスの会員も激励していました。

奨学生に対しては4半期ごとに奨学金を支給するだけでなく、会員の中から施設ごとに担当を決め、出身養護施設の自立支援スタッフと連絡を取りながら、一緒に寄り添い、卒業まで伴走していく予定です。



新年互例会 2023.1.10.

新年互例会は1月10日(火)の夕方、学士会館で開催し、長唄・三味線の杵屋勝彦氏のお正月らしい演奏を楽しみました。続いて、今年96歳を迎える安田和義名誉会員を筆頭に「卯年」生まれの年男をお祝いし、長期在籍者のリージョンオブオーナーの表彰でも35年在籍の安田氏が登場、大きな拍手を浴びました。



秋のチャリティゴルフ大会 2022.11.11.

2年ぶりに飯能ゴルフクラブ(埼玉県飯能市)で開催され、15名が参加しました。

好天に恵まれた中で、佐伯嘉彦会員が見事に優勝。最高齢の安田和義名誉会員も最後まで元気にラウンドされました。今回もゲストで参加した方の一人がキワニスへ入会し、会員増強の一助にもなっています。



3年ぶりASPAC年次総会 2023.3.16.~18.

アジア太平洋地域のキワニスクラブを統括するASPACの年次総会が、マレーシアのポート・ディクソンで開催され、日本からも吉國ガバナーはじめ38名が参加、東京キワニスクラブからは5名が参加しました。コロナ渦の影響で対面での開催は3年ぶり。



さよなら夕食会(世界ビーチ・パーティ)で、日本地区はドラえもんに扮した吉國ガバナーを中心に、全員が主題歌に合わせて踊りを披露しました。

大会終了翌日には東京クラブとフィリピンのマニラクラブのメンバーが、姉妹クラブ協定に向けての打ち合わせをしました。



金曜昼の例会

第1・3・5週の金曜に学士会館で例会を開催、ランチをとりながら識者の卓話を聞き、会員相互の交流を深めています。最近の卓話の講師と演題は次の通り。

- 永岡鉄平氏 (NPO法人フェアスタートサポート代表理事)
児童養護施設と企業のパートナーシップが子ども達の社会参画の精度を高める
- 大野寿子氏 (メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン理事)
夢に向かって一緒に走ろう
- 吉國真一会員 (国際キワニス日本地区ガバナー)
キワニス:子ども達の未来のために
- 宮崎修二会員 (一般社団法人日本シンガポール協会理事)
マレーシアとシンガポール~2023ASPAC大会にちなんで
- 泉宏氏 (政治ジャーナリスト)
危機続く岸田政権、国会・統一地方選乗り切り広島G7成功で任期完投目指すが
- 平岩国泰氏 (新渡戸文化学園理事長)
未来の学校、未来の放課後
- 佐伯嘉彦会員 (理事・子ども研究担当)
子ども研究会の1年を振り返って
- 加藤雄輔氏 (児童養護施設若草寮施設長)
児童養護施設の現状とこれから
- 山田明彦会員 (国際キワニス日本地区事務総長)
キワニスブランド
- 有馬純氏 (東京大学公共政策大学院特任教授)
地球温暖化をめぐる国際情勢と課題

国際懇話会

第96回 2023.3.10.

- 増田ユリヤ氏
(国際ジャーナリスト)
「mRNAワクチンの開発者
カタリン・カリコの半生」

新入会員紹介

- ・朋政輝樹 (ともまさ てるき)
入会日 2022年11月25日
- ・島田由香 (しまだ ゆか)
入会日 2023年 2月 3日
- ・坂本 聡 (さかもと さとし)
入会日 2023年 3月 3日
- ・山田祐司 (やまだ ゆうじ)
入会日 2023年 4月 7日

事務局便り

「キワニスのブランド力を向上させるにはどうしたらよいか」。全国のキワニスクラブの何人かの会員がオンライン会議をやっていた時のこと。対話型AI(人工知能)の「チャットGPT」に聞いてみようということになり、さっそく試してみた。「地域との連携」「SNSの活用」など意外にも常識的な提言が並ぶ。あいさつ文の作成など事務局の仕事や、予算策定なども、そのうちAIに任せられるようになるのだろうか。

編集後記

「子ども家庭庁」誕生、子ども・子育て予算の拡充など、政府もようやく「子ども真ん中」に動き出しました。民間にもできること、やるべきことがあるはず。「子ども達のために」をずっと掲げ続けてきたキワニスの出番も増えるかもしれません。コロナの感染防止ルールも緩和に向かい、子どものイベントなどもようやく動き出しました。はやく子どもたちに笑顔が戻るよう、大人は知恵を出し、汗をかく時がきたようです。(広報委員会)